



ゼンマイ 薇

ゼンマイ科

学名 *Osmunda japonica*



ゼンマイの葉裏

ゼンマイはシダ植物

ゼンマイは**シダ植物**という原始的なグループに含まれ、種子の代わりに胞子をつくる。

ゼンマイの葉脈

葉の内部には水や栄養の通り道となる**葉脈**（ようみゃく）が存在する。ゼンマイの葉脈は不思議な模様を描いている。



ヤマノイモ 山芋

ヤマノイモ科

学名 *Dioscorea japonica* var. *japonica*

環境

林道でよく見かける。ツル性でフェンスに絡まっているときがある。

2つの繁殖方法

ヤマノイモには2つの繁殖方法がある。

- 1つ目は種子による方法。
子個体は様々な遺伝子を持つため、**環境変化に強い個体群になる。**
- 2つ目は**むかご**による方法。
受粉を必要としないために、**効率よく子個体を生み出せる。**

環境

田のあぜや野原に普通に見られる。

和名の由来

「小鮒草」は、葉の形を小さなフナ（コイ科の魚）に見立てたことが由来。

コブナグサ 小鮒草

イネ科

学名 *Arthraxon hispidus*



環境

山地の日当たりのよい所に多い。早野では土手に見られた。

和名の由来

東京の戸田原に多かったことが由来。

イネ科の種類判別方法

イネ科には似た種が多い。種類の判別には穂の一粒一粒（小穂）を観察する必要がある。



トダシバの小穂



トダシバ 戸田芝

イネ科

学名 *Arundinella hirta*



定期的な管理が必要

クズはつる性の植物であり、茎はしなやかさと強靱性を兼ね備えている。

短期間で横方向に成長していく。このため、一面がクズに覆われている場所でも、実際の個体数は少ないことが多い。

日光を求めて、他の植物を覆いつくすように成長していく。

これらのことから、管理を怠るとクズに覆われて暗い場所ができてしまう。一度こうなると、根から除去するのは非常に困難。

クズ 葛

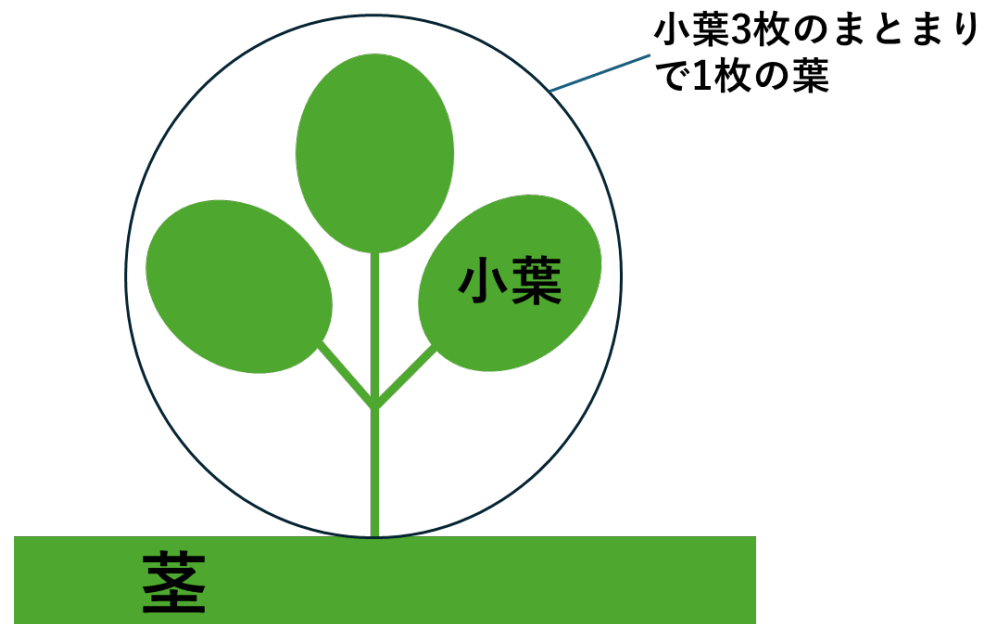
マメ科

学名 *Pueraria lobata lobata*



マメ科の判別方法

植物の葉のつき方には様々なパターンがある。特にマメ科は葉のつき方に特徴がある。



ネコハギ 猫萩

マメ科

学名 *Lespedeza pilosa*

図のように、マメ科の多くの種は、小葉3枚がまとまって出てくる。このような葉のつき方を**三出葉**（さんしゅつよう）という。



マグワの 裂けていない葉



マグワの裂けた葉

葉の形の多様性

同じ種でも葉の形が異なる場合がある。

クワは、個体によって葉の裂け方が異なる。園芸用に品種改良されたものでは、裂け方がひと際強い。

葉の形が変化するのは、その個体の年齢が関わってくる場合や、環境条件が関わってくる場合などが知られている。

マグワ 真桑

クワ科

学名 *Morus alba*



キンミズヒキの葉



キンミズヒキの種子

種子散布様式

キンミズヒキの種子はケバケバしている。これにより動物の肌にくっついて遠くに種子を散布してもらう。このような種子散布の方法を**動物散布**と呼ぶ。

キンミズヒキ 金水引

バラ科

学名 *Agrimonia Pilosa* var. *japonica*



環境

道端や田んぼのあぜや野原に生える。

和名の由来

ヘビという名前に反して、実際には毒がない。

実は無味で決して美味しくはない。このことから、人は食べないがヘビは食べるだろうということでこの名がついた。

ヘビイチゴ 蛇莓

バラ科

学名 *Potentilla hebiichigo*

葉裏に広がる銀河

ウツギの葉はザラザラとした手触りが特徴である。

葉を20倍に拡大して見てみると、大量の毛が生えていることに気付く。この毛は5本程度の束になっており、星形に広がっていることから**星状毛**（せいじょうもう）という。



葉裏の星状毛



ウツギの葉

ウツギ

空木

アジサイ科

学名 *Deutzia crenata* var. *japonica*

和名の由来

キツネノマゴの花はイネの穂のようにまとまった花をつける。このような花の形態を**穂状花序**（ほじょうかじょ）といい、花全体のことを**果穂**（かほ）という。

植物を撮るコツ

自然が豊かな場所で植物を撮ろうとすると、背景が緑であることや風によって対象物にピントが合いにくい。そんなときは、対象の後ろに白い紙や手を添えてあげるとピントが合いやすい。



キツネノマゴの果穂

キツネノマゴ 狐の孫

キツネノマゴ科

学名 *Justicia procumbens*



セイタカアワダチソウ



セイタカアワダチソウの花

虫を誘引する花

セイタカアワダチソウは北米原産の外来種であり、ときに草地に大発生する。

しかしながら、セイタカアワダチソウの花にはハナムグリ類やハチ等の多種多様な昆虫が集まる。これは、外来種が日本の生態系に組み込まれてしまった例といえる。

セイタカアワダチソウ

背高沱立草

キク科

学名 *Solidago altissima*

木と草の違い

つる植物の中には草と木が存在する。クマヤナギはつる性の木（木本植物）である。

木と草の違いは、成長の仕方にある。長くなろうと成長することを**一次成長**という。また、太くなろうと成長することを**二次成長（二次肥大成長）**という

木は一次成長と二次成長をどちらも行う。また、地上部が一年以上成長し、何年も繰り返し実をつける。

草は一次成長のみを行う。また、多くの種は一年以内に実をつけ、その後枯れる。

クマヤナギ 熊柳

クロウメモドキ科

学名 *Berchemia racemosa*



クマヤナギの葉

バラ科のトゲ

人間の顎が上下に動くのに対して、昆虫の顎は左右に動く。これは、昆虫の顎が脚から進化したためであると言われている。このように、生き物の複雑な構造には進化が関わっている。

バラ科植物のうち、モミジイチゴ等のいくつかの種類には鋭いトゲが生えている。これは葉や枝から進化したと言われている。

また、植物の花の花びら（花弁）も元々は葉であったと言われている。



モミジイチゴ 紅葉苺

モミジイチゴ

バラ科

学名 *Rubus palmatus* var. *coptophyllus*

虫コブ

植物をじっくり観察していると、不自然なコブができてることがある。このコブの内部には昆虫やダニが寄生しており、これを虫コブという。

ヌルデシロアブラムシはヌルデの葉に虫コブを作る昆虫である。この虫コブは五倍子（ごぶし）または倍子（ぶし）と呼ばれ、口の中の腫物を治す薬として使われたほか、お歯黒のための染料としても利用された。

ヌルデ

白膠木

ウルシ科

学名 *Rhus javanica* var. *chinensis*



ヌルデの葉

環境

比較的日陰に強く、背の高い草の多い草地や樹林の中でも見られる。

園芸種としての利用

日陰に耐えることから、あまり日の当たらない場所の植栽に使われる。また、葉の一部が白い斑入り（ふいり）と呼ばれる品種が存在する。

ヤブラン 藪蘭

キジカクシ科

学名 *Liriope muscari*



ヤブラン



ハイヌメリグサの穂

和名の由来

茎が横に這うようであり、葉をもむと粘り気があることから。

イネ科の種類判別

イネ科は似ている種類が多く、種類判別が困難である。

種類判別には穂の形態や小穂の付き方、葉の付き方など複数部位の形態を見る必要がある。

ハイヌメリグサ 這い滑り草

イネ科

学名 *Sacciolepis spicata* var. *spicata*

和名の由来

バッコは東北の方言で「婆」という意味である。花序の様子からつけられた。

ヤナギと昆虫

ヤナギの仲間は河川敷に多く見られ、樹液には様々な昆虫が集まる。

カブトムシやクワガタが好む樹木といえバクヌギやコナラが有名であるが、河川敷ではもっぱらヤナギ類に集まる。

バッコヤナギ

婆柳

ヤナギ科

学名 *Salix caprea*



バッコヤナギの葉



イヌシデ

イヌシデ

犬四手

カバノキ科

学名 *Carpinus tschonoskii*

和名につく犬

和名に「イヌ」とつく植物がある。
このイヌには、「本物と異なる」、
「役に立たない」という意味がある。

雑木の代表種

様々な木が混じっている林のことを
雑木林という。雑木林の代表種として、
薪炭やシイタケのホダ木用目的のクヌ
ギ、コナラ（ブナ科）がある。

イヌシデもブナ科同様、雑木林でよく見かける。

参考・引用文献

松永モモ江：野山の旬を味わう 四季の田舎料理 春夏編：社団法人 農山漁村文化協会
佐藤幹夫 編：学研もちあるき図鑑 まるごと 日本の生きもの：株式会社 学研教育出版
佐竹義輔・原寛・亘理俊次・冨成忠夫 編：日本の野生植物 木本Ⅱ：株式会社 平凡社
牧野富太郎：コンパクト版2 原色牧野日本植物図鑑Ⅱ：株式会社 北隆館